

平成 29 年度 地域力向上事業
「第 2 回ジュニアジオガイド講座」事業報告書

企画指導専門職 山下 正晃

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 阿蘇ジオパークを地域教材として活用することで、郷土と自然を愛する態度の育成を図るとともに、問題解決学習を通して科学的思考力と自ら学ぶ意欲の育成に努める。また、阿蘇ジオパークの情報を発信することで幅広い知識と表現力の育成に努める。
- (2) 期 日 平成 29 年 9 月 16 日(土)～17 日(日) 1泊2日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家、阿蘇ジオパーク
- (4) 参加者 熊本県の小学 3～6 年生 21 名
(3 年生 1 名、4 年生 6 名、5 年生 8 名、6 年生 6 名)
- (5) 講 師 池辺 伸一郎 氏 (阿蘇火山博物館 久木文化財団 館長)
花岡 利和 氏 (阿蘇ジオパークガイド協会 ジオガイド)
花岡 玲子 氏 (阿蘇ジオパークガイド協会 ジオガイド)
山本 セツ 氏 (阿蘇ジオパークガイド協会 ジオガイド)
大西 佳代 氏 (阿蘇ジオパークガイド協会 ジオガイド)
川原美代子 氏 (阿蘇ジオパークガイド協会 ジオガイド)
- (6) 担当職員 山下 正晃 (企画指導専門職) 安部 信吾 (企画指導専門職)
宮本 賀通 (事業推進係員) 志賀 泰成 (事業支援室主任)
田上 正文 (事務補佐員)
- (7) 内容 【1 日目】ガイド原稿作り、大観峰ガイド体験、南阿蘇湧水群探検、(水質調査) ソーダ水作り
【2 日目】火山灰観察、スコリア形成実験、まとめ・発表会 (大観峰ガイド)

2. 成果と課題

(1) 成果

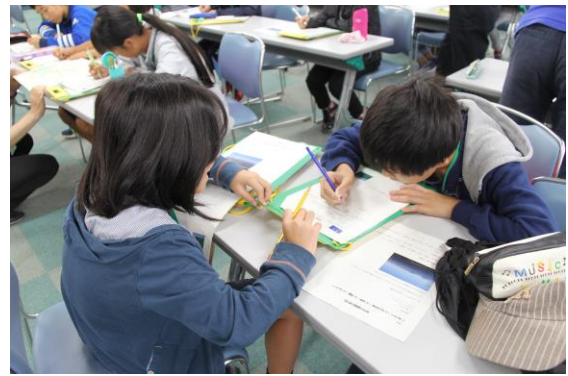
- ① 台風接近に伴い、スケジュールを大きく変更したが、当初より予定していた活動はほとんど行うことができた。また、火山灰観察やスコリア形成実験を変更プログラムとして、阿蘇青少年交流の家職員で行ったが、参加者が関心・意欲を高くもちながら活動を行う姿が多く見られた。
- ② 大観峰ガイド体験では、練習を重ねるごとに大観峰の紹介がスムーズになり、相手に伝わりやすい説明を意識しながらガイドを行う子供たちが多く見られた。また、大観峰を訪れていた観光客を相手にガイド練習を行う参加者もあり、学習したことを発信しようとする意欲の高まりも見てとれた。
- ③ 参加者の感想には、「初めてガイドを行ったけれど、ガイドができるようになってよかった。」「雨で外での活動が減ってしまったけれど、実験が楽しかった。」「身近なものを使った実験でジオの秘密がわかった」などが見られた。実感を伴った活動が、参加者の興味関心を引きつけるとともに、次回の探検への意欲を高めていた。

(2) 課題

- ① 今回は少雨でも決行する計画だったが、台風の接近に伴い、当初の予定から屋内プログラムに急遽変更して事業を進めた。屋外で活動ができないことを想定した屋内プログラムについて、計画段階から熟考しておく必要があった。
- ② 今回は第 1 回の活動グループとは大きく異なった班編成を行ったことで、ジオガイドの方々が参加者の実態把握、ガイド体験等での活動の支援を行う際に負担が大きくなった。
- ③ 次回の事業では、今回の原稿を基に大観峰を訪れた人々へのガイドを行う予定である。活動をスムーズに行うことができるよう、原稿の用意や当日の役割分担などの事前準備が必要である。



活動班での交流会



大観峰ガイドの原稿づくり



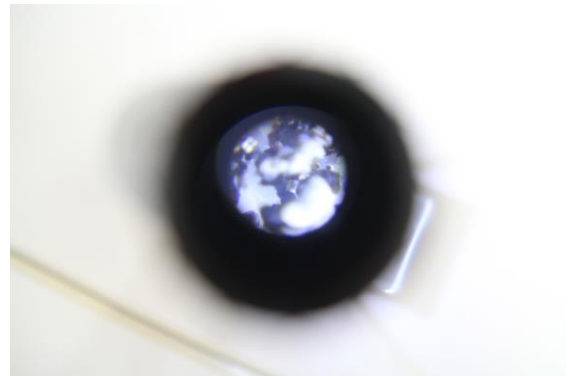
南阿蘇湧水群で水をくむ参加者



湧水群の水を使ってソーダ水を作る参加者



火山灰の観察を行っている参加者



火山灰に含まれる鉱物の結晶



スコリア形成実験を行う参加者



修正した原稿を使ってガイドを行う参加者